

時代の祭  
像  
地方の映

# 文理大の作品 奨励賞

## 花通し命の尊さを伝える

【大分】全国各地の優れたドキュメンタリー映像作品を顕彰する「第40回『地方の時代』映像祭2020」で、大分市の日本文理大工学部情報メディア学科の作品が市民・学生・自治体部門の奨励賞を受賞した。県



「第40回『地方の時代』映像祭2020」で奨励賞を受賞した日本文理大の学生と小島康史教授（後列右） 〓大分市一木

内からの入賞は14年ぶり。同祭は「地域・地方からわが国のあり方を問う」をテーマに、日本民間放送連盟、NHKなどが毎年開いている。今回は放送局、ケーブルテレビ、高校生など4部門に計260作品の応募があった。市民・学生・自治体部門は43作品がエントリーした。

受賞作品の「命の花壇」或るいのち達の記録（15分）は昨年度、映像構成や演出を学ぶ授業で当時の3年生11人が制作した。花を通して命の尊さを考えてもらおうと、殺処分された犬猫の遺灰を土に混ぜた花壇が「おおいた動物愛護センター」（同市）にあることを紹介。譲渡先が見つからなかった犬猫が殺処分されるまでをつぶさに取材し、カメラで追った。

監督を務めた池見光士郎さん（23）、撮影・編集を担当した熊本春樹さん（22） 〓いずれも4年 〓は「イメージしづらい現実を主観を入れず淡々と伝えること、見た人それぞれがどう思

い、どう行動するかを目指した」。

2人は11月中旬に大阪府吹田市内であった贈賞式に出席。「プロの人と並んで表彰の舞台に立てたのがうれしい。これからの自信にもなった」と話す。

指導に当たった小島康史教授（59）は「対象との距離感が難しい内容。自分たちの思いを押し付けがちだが、冷静に捉え、見る人に受け入れられるかも考えながら撮影した」と頑張りたたえた。（玉井美智子）